本校研究主題

自ら学び　豊かな関わりの中で　伝え合い　高め合う児童の育成 ～単元構成の工夫・必然性のある学習課題の設定・対話の場の充実を通して～

雪組月組　生活単元学習指導案

指導者　石井　淳平　（T１）
鈴木　陽子　（T２）

1　日時・場所　令和４年 11 月９日（水）　第２校時（9：35～10：20）　雪組・月組教室

2　単元名　　つくって　あそぼう

3　単元の目標

○　おもちゃの作り方を理解し、道具や材料の使い方のきまりを守って、自分でおもちゃを作ることができる。
【知識及び技能】

○　友達や教師と一緒におもちゃづくりに取り組み、自分のおもちゃや友達のおもちゃの良さを伝え合うことができる。　【思考力・判断力・表現力等】

◎　自分の作りたいおもちゃを夢中になって作り上げたり、作ったおもちゃで友達と仲良く遊んだりすることで、活動の楽しさを味わい、共有しようとしている。　【学びに向かう力・人間性等】

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○　おもちゃの作り方を理解し、自分で制作する。 ○　道具や材料の使い方のきまりを守っている。 ○　きまりを守って、友達と一緒に遊んでいる。	○　おもちゃづくりやおもちゃ遊びに見通しを持って取り組んでいる。 ○　自分が作ったおもちゃの良さを友達と伝え合っている。 ○　友達や教師と一緒により良く活動に取り組んでいる。	○　夢中になっておもちゃづくりやおもちゃ遊びに取り組み、最後までやり遂げた満足感を得ている。 ○　友達と仲良くおもちゃ遊びやおもちゃづくりを楽しんでいる。 ○　友達と共に楽しさを味わい、力を合わせて活動に取り組んでいる。

5　指導観

（1）児童について

本校の特別支援学級は、知的障がい学級１学級(雪組)、自閉症・情緒障がい学級３学級（月・星・花組)、難聴学級１学級(桃組)の５クラスである。１年生２名、２年生６名、３年生２名、４年生２名、５年生３名、６年生５名の計 20 名の児童が在籍している。異なる学年や様々な実態の児童が在籍しているため、単元や課題に応じて、個別・小集団・一斉と形態を変えながら指導している。学級の枠を超えて、特別支援学級の同じ学年の児童を集めて指導したり、学習内容によって通常学級の児童と交流して学ぶ時間を設けたりするなど、実態に応じて学習環境を整えるようにしている。

雪組・月組の児童はそれぞれ仲が良く、普段から同じ学級の友達とよく遊んでいる。また、友達がやっていることに興味・関心が高く、一緒に活動したい気持ちが強い。粘土遊びやブロック遊びなど作って遊ぶことも大好きで、休み時間は好きなものを作ってごっこ遊びを楽しんでいる。一方、こだわりが強く、自分の

やりたいことと、やらなくてはならないことの折り合いをつけることが苦手な児童が多い。自己表現が苦手な児童や、感情のコントロールが難しく言葉で伝える前に突発的な行動をとってしまう児童もいる。また、完成までの見通しが持ちにくい児童、手先の不器用な児童も多く、個別の支援が必要である。図画工作科は、交流および共同学習として行う時間が多く、個別の支援を受けながら自分の作りたいものを精一杯に作っているが、じっくりと自分のペースで制作するには、内容が高度で周囲の支援者に頼る場面が多くなりがちである。

そこで、手作りおもちゃへの興味を入り口にして、自分で選んだおもちゃを自分の力で作り上げ、完成させることを通して、達成感を感じさせ、自分の思いを成し遂げる力を付けたい。そこまで自分がこだわって一生懸命作ったおもちゃだからこそ、友達に見せたい、知らせたい、一緒に遊びたいという感情が生まれるはずである。その思いを行動に移せる活動を設定し、友達と関わる中で、一緒に遊べてもっと楽しかった、友達と思い切り遊んで満足したという、楽しさの共有体験をさせ、友達と協力して物事を成し遂げていく良さを感じさせたい。

（２）単元構成について

年度初めに行った生活単元学習におけるアンケートでは、「工作をしたい。」「おもちゃで遊びたい。」という意見が多く、児童にとっておもちゃづくりが、興味・関心のある身近なテーマであることがはっきりした。そこで、本単元の導入（１次）では、教師が用意したおもちゃでひたすら遊び、その中で楽しさを味わわせたいと考えた。そして、実際におもちゃを作る時間を取り、もっと作って、友達と遊んでみたいという気持ちを高めていく。

２次では、ゲストティーチャーを招いて、楽しいおもちゃの作り方を教えてもらう活動を設定した。そこで得たおもちゃづくりのアイディアや本やタブレットを使って調べたアイディアを基に、自分が納得のいくまでおもちゃを作るという活動につなげる。児童は作ったおもちゃで遊んだり、学級内で友達と見せ合ったり、一緒に遊んだりする中で、たくさんの友達に見てほしい、知ってほしいという思いを持つと考えている。そこで、ペア学級（雪組と月組）でおもちゃを紹介し合って、遊んでみるという活動を行うこととした。本時はその活動の時間である。

その後、３次では、さらに特別支援学級全体で楽しみたいという思いを持たせたい。その思いを形にする方法として、「おもちゃランド」を自分たちで作り、みんなで楽しむ活動を行いたい。振り返りとして一緒に遊んだ友達やゲストティーチャー、おもちゃランドに来てくれた人に、楽しい学習ができた感謝の気持ちを伝え、次の生活単元の学習に期待感を持たせて終わりたい。

本単元では、児童にとって身近なおもちゃづくりというテーマを扱うことで、主体性を発揮し、自分の作りたいおもちゃづくりに没頭し、教師の手を借りながらも最後まで作って完成させることができたという満足感や達成感を味わわせたい。そして、思いを込めておもちゃを作り、そのおもちゃで仲良く遊ぶという豊かな関わりの中で、他者と楽しさを共有し、学びが深まると考える。このようにして、本校の研究主題である「自ら学び　豊かな関わりの中で　伝え合い高め合う児童の育成　～単元構成の工夫・必然性のある学習課題の設定・対話の場の充実を通して～」に迫っていきたい。

（3）指導について

本時は、単元の２次の終わりに当たる。児童はこれまでに自分で作りたいおもちゃを完成させ、その面白さや楽しさを感じている。その自分のお気に入りのおもちゃを、ペア学級の友達にも紹介したい、見てほしい、一緒に遊びたいという気持ちが高まっている。前時では、ペア学級の友達にどのように自分のおもちゃの良さや遊び方を伝えるといいか教師と一緒に考えている。本時では、前半に雪組の児童が月組の児童に自分の作ったおもちゃの良さや遊び方を伝え、一緒に遊びを楽しみ、後半に月組の児童が雪組の児童に自分の作ったおもちゃの良さや遊び方を伝え、一緒に遊びを楽しむ。児童が自分のやりやすい方法で、良さや遊び方を伝え、進んでコミュニケーションを取ることで、自分の思いが十分に伝わった満足感や、友達のおもちゃの楽しさの理解、遊びの深まり、そして楽しさの共有が生まれると考える。本時において目指したい児童の対話的な学びの姿は、以下の五つである。

○　友達に注目してもらおうと、指差しをしたり言葉で伝えたりする姿
○　友達のおもちゃに注目する姿
○　自分の作ったおもちゃを見せ合う姿
○　友達のおもちゃの遊び方をまねして、やろうとする姿
○　困った時、周りの友達や先生に助けを求める姿

これらの対話的な学びの姿を引き出すために、児童が自由にペア学級のおもちゃを楽しめる場を設定し、児童に応じた声掛けや視覚支援などの手立てを工夫したい。

6　指導計画（全 15 時間）

次	時数	主な活動	指導の手立て（○）　評価（◎）
1	1	○　おもちゃコーナーのいろいろなおもちゃで、自由に遊ぶ。 ・　五つのコーナーのいろいろなおもちゃを自由に手に取って、遊んで楽しむ。 ・　一人で遊んだり、友達と遊んだりして、自由交流しながら遊ぶ。	○　これまでおもちゃ遊びをした生活経験を想起させ、今回の学習に結び付ける。 ○　あらかじめ教師の側で「とばす・まわす・ころがす・はねる・うごく」の５種類のおもちゃのコーナーを用意する。 ○　児童が五つ全部のコーナーを回れるために、時間を区切る。また、チェックカードを配り、回った所にシールを貼れるようにする。 ◎　自分でやりたいおもちゃを見付け、進んで遊んでいる。 ◎　友達とルールを守って楽しく遊んでいる。
	いろいろなおもちゃをつくって、ともだちといっしょに　あそぼう。		
	2	○　おもちゃコーナーの中のおもちゃを作ったり、遊んだりする。 ・　遊んでみて、楽しかったおもちゃを作る。 ・　遊び足りなければ遊ぶ。（自由交流）	○　前時の体験を基に、自分の作りたいおもちゃのコーナーに行って、おもちゃを作る。 ○　それぞれのコーナーで、おもちゃの作り方が分かる手順書と材料を用意しておく。（見て作れるように）各コーナーの教員や介助員が、おもちゃづくりの手伝いを行う。 ○　児童が進んでおもちゃを作れるよう、教師は個に応じて声掛けをする。児童が困ったときも自分で伝えられるよう、一人一

			人の意思表示の仕方を想定しておく。 ○　活動の様子をタブレットに写真や動画で記録し蓄積する。振り返りで活用できるようにする。 ◎　夢中になっておもちゃづくりを楽しむ。 ◎　おもちゃづくりやおもちゃ遊びを通して、友達と進んで関わり、楽しんでいる。
2	3	○　ゲストティーチャーに、おもちゃづくりを教わる。 ・　おもちゃづくりの名人に楽しいおもちゃを紹介してもらう。 ・　作り方を教わり、作って遊ぶ。 ・　次への見通しを持つ。	○　おもちゃづくりの楽しさや面白さが伝わるように、ゲストティーチャーと事前に打ち合わせておく。（身近な材料で、作り方もシンプルなものにする。） ○　おもちゃづくりのコツが視覚的に伝わるように、手順書等を用意しておく。 ○　道具の使い方も学べるように打合せをしておく。 ◎　ゲストティーチャーの話をしっかりと聞いて、おもちゃづくりを楽しんでいる。（自己内対話） ◎　困ったことや分からないことがあると、周りの人に助けを求めている。
	4 5	○　自分の作りたいおもちゃをじっくりと作る。 ・　作りたいおもちゃの作り方を調べる。 ・　材料を選んで作る。 ○　前時に続いて、おもちゃづくりを行う。 ・　作って遊ぶことを繰り返す。 ・　材料を選んで作る。	○　何を作っていいか思い付かない児童には、おもちゃコーナーの経験やゲストティーチャーから教わった経験を想起させたり、本や資料を用意して具体化できる声掛けを行ったりする。 ○　調べる際は、タブレットを必要に応じて使う。 ○　友達にできたものを見せたり、友達の作ったおもちゃを見たり、一緒に遊んだり、交換する等自由交流ができるような雰囲気を作る。 ○　存分におもちゃを作って遊んだ満足感を基に、ペア学級の友達と遊びたいという気持ちを高める。 ◎　楽しくおもちゃを作ったりおもちゃで遊んだりしている。 ◎　作りたいおもちゃを見通しを持って最後まで作っている。 ◎　教わる、見せ合う、一緒に遊ぶなど進んで教師や友達と関わりを持ち、活動を楽しんでいる。
	6	○　作ったおもちゃをペア学級の友達に伝える方法を考える。 ・　おもちゃの良さや遊び方を伝える工夫をする。	○　ペア学級の友達をイメージし、伝わりやすい方法を児童と一緒に考える。視覚的に伝わるように工夫する。 ○　紹介した後、一緒に遊んだり作ったりできるよう活動の流れを一人一人考えさせておく。 ◎　自分のおもちゃの楽しさを一生懸命伝えようとしている。
	7 （本時）	○　ペア学級の友達に紹介して、一緒に遊ぶ。 ・　遊び方を伝える。 ・　友達と楽しく遊ぶ。 ・　次への見通しを持つ。	○　児童が自信を持って伝えられるように、前時に練習する場を設ける。 ○　おもちゃ遊びの楽しさを共有できるよう、感想タイムで児童の教え合いの姿や、共に遊んでいる姿を取り上げる。 ○　ペア学級同士で交流した満足感や成功体験を生かして、支援学級全体で遊びたい、という思いを高める。 ◎　友達に自分のおもちゃの良さを伝え、おもちゃ遊びを一緒に楽しんでいる。

3	8 ～ 11	○　みんなで、「おもちゃランド」の計画を立て、準備をする。 ・　どんな「おもちゃランド」にするか考える。（誰を招待するか、どんな場やコーナーにするかなど） ・　準備をする。 ・　「おもちゃランド」をする。（２回は実施する。）	○　支援学級全体で、「おもちゃランド」のやり方について話し合う。 ○　交流学級の児童との活動についても考える。 ○　誰が楽しむのか、どうやって楽しむのかを考える。その際、誰を招待するのか、おもちゃで遊ぶだけでなく作ったり売ったりするのかについても考える。 ○　一人一人なすべき役割や準備するものを一緒に考え、明確にする。 ○　一人で行うのか二人以上で行うのか決めておく。 ○　本番までの流れをカードにして、見通しを持って活動できるようにする。 ◎　「おもちゃランド」を楽しみにして、見通しを持って自分の準備をしている。 ◎　友達と関わり合い、自分の役割を理解して意欲的に取り組んでいる。
	12 13	○　みんなで「おもちゃランド」を楽しむ。	○　おもちゃのコーナーを運営する側と遊ぶ側両方を体験できるようにする。 ○　必要に応じて手順書を見て、安心して活動できるようにする。 ◎　自分のコーナーに来てくれたお客さんに、進んで関わろうとしている。 ◎　自分の役割を最後まで果たそうとしている。 ◎　自分のやってみたいおもちゃを見付け、友達と関わりながら、楽しんで遊んでいる。
	14 15	○　単元の振り返りに、お礼のビデオメッセージを作る。 ・　感想をまとめる。 ・　ビデオに撮って、相手に渡す。 ・　活動を振り返り、次への見通しを持つ。	○　これまでの活動の様子を写真や動画で撮りためておく。 ○　お礼を伝えたい相手を明確にして（一緒に活動した他のクラスの友達、招待した人、ゲストティーチャーなど）、一人一人伝え方が工夫できるよう支援する。（言葉、絵カードなど） ○　ビデオ撮りした後は自分で見返してチェックさせる。また、できる限り相手に自分で渡す。 ○　単元全体を振り返り、楽しかったことや頑張ったことを出し合い、称賛し合う。 ○　次の生活単元学習でやりたいことを出し合い、期待感を高める。 ◎　感謝の気持ちを自分なりに一生懸命伝えようとしている。 ◎　自分だけでなく友達の頑張りやよさに気付いている。 ◎　単元全体を楽しんでいる。

7　本時の指導

(1) 目標　　自分が作ったおもちゃの良さを伝え合って、一緒に遊び、楽しさを共有することができる。

(2) 本時の主な言語活動（対話の場）

自分なりの方法で、作ったおもちゃの良さや遊び方を伝えたり、友達のおもちゃの良さや遊び方に気付いたりする。

(3) 個別の目標及び評価規準（当日配布）

(4) 本時の展開（別紙参照）

(5) 準備物　タブレット　おもちゃづくりやおもちゃ遊びに必要な材料や道具

8　事後の指導

本時の活動を広げ、特別支援学級全体でおもちゃランドを計画し楽しむことで、自発的にやり方を考え、自分のおもちゃをより多くの人に伝える面白さや、たくさんの人と関わり合えたという満足感を味わわせたい。

9　授業評価の視点

(1) 授業構成力

児童が授業全体を通して、進んで他者と関わり合うことができる場になっているか。

(2) 授業実践力

教師の支援は、児童の対話を引き出し、児童が自分の目標を達成するために有効であったか。

10　単元に関する個別の実態及び目指す姿（㊙当日資料）